



# 杉並3診『在宅療養を支える学習会』報告！！

《開催日》2016年9月15日（木）午後2：00～午後3：30 《場所》天沼診療所3F 《内容》「在宅看取りについて」 《参加者》31名  
今回は竹崎先生の学習会です！！今回は職員を含めて、参加者31名と満員でした！！今回は多くの初めての他事業所の方が参加していただき、新しいつながりができた点でも、お互いがとても充実した学習会となりました。【当日の話の様子を紹介します！！】

**【現在、100歳以上は6万6千人！！そのうち女性は87.6%】**

東京の高齢者の増加率は全体の60%→これから私達はこの超高齢化によって、在宅をどう取り組んでいくのか？が強く求められる。在宅の定義と亡くなる場所も変わってきた。特に施設での死亡が増えてきており、特に杉並区では所得が高い方は増々施設入所し、そこで亡くなる方が多くなってきている。現在は、営利主義の施設が8割占めている状況。

**【今後は在宅医療の在り方も変わる！！】**

この状況からも、私達医療従事者は在宅の方をどう支えていくか？病気を治すだけでなく、介護そのものも含めて、支えていかなければならず、いかに連携していくか？がポイント。

**【最後を迎えたい場所は自宅—では看取りをしていく上で必要なのは何なのか？】**

統計から最後を迎えたい場所は自宅とある。在宅の状況によって、在宅での看取りができるか？できないか？も決まってくる。必要な医療は何なのか？、本人や家族をどう支えていくか？を考えることが必要となってくる。病状を理解するのと、療養中にでてくる様々な悩みを理解するのは別物。現在の核家族化している若い家族や介護施設の若い職員の方達は、人の死と言うものに直面する機会が少ないこともあり、看取りをしていく上で、難しい面がある（介護施設の職員の方には教育が必要）。例えば、主治医に連絡しないで、慌てて救急車をすぐ呼んでしまうとか・・・。そういったことがない様に日頃から、主治医やケアマネージャーとしっかり連絡を取る状況を作りあげておくことも必要となってくる。

**【看取りは相当、覚悟が必要！】**

在宅での看取りを取り巻く状況は急変してくる可能性が多々あるが、超高齢化社会は避けられない現実が目の前にある。医療に限界はあるが、それに立ち向かっていかなければならない！と、用意してくださった資料を元に、先生の経験も含めて、大いに話していただきました。

**【先生からは、ケアマネさんをお願いしたいこととして】**

- ・利用者の経済状況を知りたい→どこまでの色々な医療やサービスをすすめたら良いのか？の指標にしたい
- ・とにかく色々な情報を共有したい

